

## NPO が取り組む教育普及活動

三宅 隆



サンマの頭骨標本作り

ふじのくに地球環境史ミュージアムも開館後1年を過ぎました。一般的に、どこでもそうですが、2年目は観客動員数が減ることが多いようですが、このミュージアムでも御多分にもれず、ゴールデンウィークは、昨年にくらべ2割程来館者が減ったようです。その後の、特に平日は、閑散として、寂しい限りでした。

これも、県民に対して、ミュージアムの認知度が少ないことがあげられますが、新聞、テレビなどマスコミへの登場も少なく、もっと認知に向けて努力する必要性を感じます。

ミュージアムでは、今年の2月から、ミュージアムに関わる人達（NPO、サポーター、サービススタッフ、インタープリター）を含めた全体での企画広報会議を、原則月2回実施して、イベント企画と協力を要請しています。ここで、提案された多くのイベントの中から、実施可能なものを抽出し、その提案者の協力を得ながら実施していくのです。

昨年の一方的な県からのイベントから、ミュージアム全体で考えるイベントになっていくことで、協力体制も充実していくようです。

夏休みのイベントについても6月初めから計画され、夏休み期間中、ほぼ毎日の様に、盛り沢山のイベントが用意されました。パンフレットも豪華な3枚折のもので、県下の多くの小学校へ配られたようです。

NPO では、NPO ならではの知識と人材を生かすイベントとして、動物を使った観察や標本作り、化石発掘体験など、多くの提案をしました。特に、サンマの頭骨標本作りやアメリカザリガニの標本作りは、応募者が定員の2倍近くにもなり、回数を増やしたりもしました。参加者は実際に自分で作ることが楽しいようです。



化石発掘体験



アニマルトレッキング

子供が参加して、それに付き添ってきた父兄も、親の方が一生懸命取り組んでいる様子も多く見られました。

化石発掘体験やアンモナイト工作も多くの方の参加がありました。

NPO へは、ミュージアム以外でも、色々なイベントの講師派遣の要請があります。

吉田町ちいさな理科館では、もう6年間にわたり、毎年夏に、講座を実施してきました。

化石発掘、星砂、チリメンジャコ、自然観察など毎年違った行事を行ってきました。今年は、鶏の手羽先の骨格標本作りをしました。

また富士山子供の国では、昨年まではミュージアムの出前講座の一環として実施していましたが、今年から、NPO への直接の講師派遣要請となりました。ここでは、フナの解剖、アニマルトレッキングなどを指導し、好評でした。

NPO は、ボランティア団体ではないので、基本的には、講師派遣に関しては、講師料を含めて、それなりの経費をいただくことになっています。しかし、講師料以上に多くの指導ができていっているのではと思っています。

これからも、可能な限り、教育普及活動の一環で、NPO の事業として、講師派遣を実施していきたいと考えています。